

[PRESS RELEASE]

平成 21 年 6 月 16 日

東京大学医学部附属病院

22 世紀医療センター関節疾患総合研究講座/臨床運動器医学講座

高齢者の QOL を低下させるロコモティブシンドロームの原因疾患の疫学的側面  
～大規模住民コホート研究 ROAD の進展～

東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター関節疾患総合研究講座の吉村典子特任准教授、及び臨床運動器医学講座阿久根徹特任准教授らの研究グループは、骨関節疾患の予防を目的として 2005 年より開始された世界最大規模の住民コホート研究である ROAD (Research on Osteoarthritis Against Disability) プロジェクトの結果をもとに、要介護の状態や要介護となる危険の高い状態を示す新しい概念であるロコモティブシンドローム (ロコモ) の原因となる骨関節疾患の最新の疫学的側面についてご報告致します。

吉村、阿久根准教授らは ROAD 参加者 3,040 人の実態調査を解析し、ロコモの原因として頻度が多いと考えられる変形性膝関節症、変形性腰椎症、骨粗鬆症の有病率を計算し、そこから推定されるロコモの対象者数 (40 歳以上) が総数 4700 万人 (男性 2100 万人、女性 2600 万人) と莫大な数となること、また複数の原因疾患を合併していることが多いことを発表しました。さらにロコモの原因疾患と他の要介護疾患、特にメタボリックシンドロームや認知障害との関連についてもご報告致します。

**【発表者】**

東京大学医学部附属病院 22 世紀医療センター関節疾患総合研究講座

特任准教授 吉村典子

東京大学大学院医学系研究科 / 東京大学医学部附属病院 整形外科・脊椎外科

教授 中村耕三

**【日 時】** 平成 21 年 6 月 30 日 (火) 13 時 30 分から 14 時 30 分

**【会 場】** 東京大学医学部附属病院 入院棟 A1 階 レセプションルーム

**【背景と研究概要】**

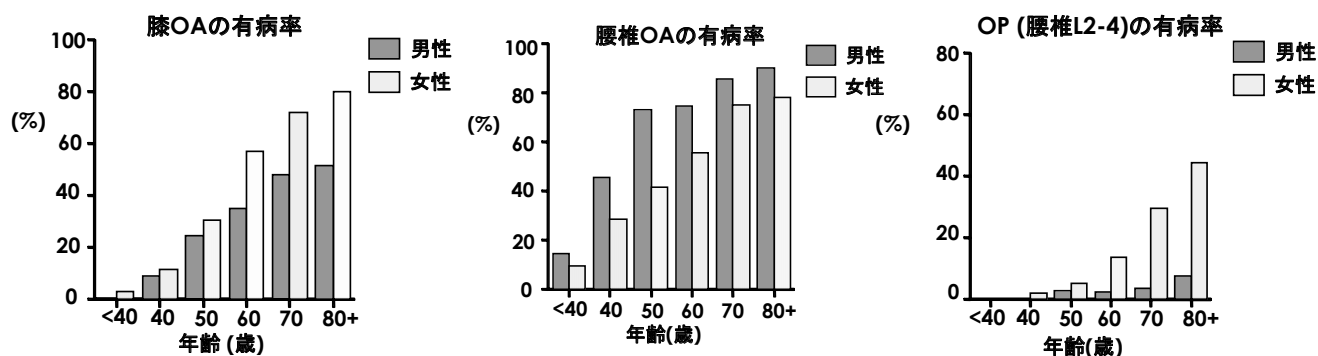
ロコモティブシンドローム (locomotive syndrome、以下ロコモ) は、日本整形外科学会により 2007 年に提唱された概念であり、運動器の障害のために要介護の状態や要介護となる危険の高い状態をさしています。その主な原因は、変形性関節症 (OA)、骨粗鬆症 (OP) とそれによる骨折などの骨関節疾患があげられますが、高齢者においては、これらの疾患は単独で発生するだけでなく、複合して日常生活動作 (ADL) や生活の質 (QOL) に影響す

ることも多いのです。そこで高齢者の介護予防という視点から考えた場合、これらの疾患をそれぞれ独自にみるだけではなく、総合して予防治療を行うことが必要不可欠となると考えられ、そこからロコモティブシンドロームという新しい概念が生まれました。

実際、厚生労働省国民生活基礎調査の結果では、高齢者が要介護になる原因の4位が関節疾患、5位が転倒・骨折で、これら二つをあわせれば1位の脳血管障害にほぼ匹敵する頻度となり、運動器の障害が高齢者のQOLを著しく障害しているのは明らかであり、高齢者のQOLの維持増進や健康寿命の延伸、医療費の低減のためには、ロコモ対策が喫緊の課題であると考えられます。しかしながら、ロコモはまだ概念が提言されているにとどまり、対象者数が極めて多いと予想されるにもかかわらず、まだその予防対策に必要な原因疾患に関しての基本的疫学情報が集まっているとはいえません。

私たち東京大学医学部附属病院22世紀医療センター関節疾患総合研究講座、臨床運動器医学講座は、わが国がすでに直面している超高齢社会に立ち向かい、高齢者が幸せな老後を過ごすためには、ロコモの原因疾患であるOAやOPを中心とした骨関節疾患の予防が不可欠であると考え、2005年より大規模住民データベースの設立を開始しました。OA、OPには慢性で進行が緩やかな上に発生時の症状に乏しいという共通の特性があるため、これらの疾患の予防のためにはすでに病気が進行して病院に来られる患者の方々への解析だけでは病気の全体をとらえることは出来ません。これらの全体像を知るためには、一般住民の方々を対象とした検診によって、まだ明らかな症状が出ていない段階での微小な変化を把握する必要があります。私たちは一般住民の方々のご協力を得て、地域特性の異なる3地域にコホートを設定し、この一連の研究活動をROAD (Research on Osteoarthritis Against Disability) プロジェクトと名付けました。

このROADプロジェクトでは、すでに世界最大規模となる3,040人もの住民の方々の参加を得て、ベースライン調査を終了しました。そしてそれらの解析から、膝OA、腰椎OA、OPの患者数の推定や年齢分布を明らかにするなど、多くの成果をあげることができました(下図)。



本プレスリリースでは、ROADの最新結果を用いて、新しい概念であるロコモの原因疾患

としての OA、特に膝 OA、腰椎 OA や、OP の疫学的側面について明らかになってきた結果をご報告致します。

まずロコモの原因疾患としての膝 OA、腰椎 OA を X 線の診断基準で、OP を骨密度による診断基準をもって診断したところ、これら 3 疾患のいずれかをもっているものの割合は男性で 84.1%、女性で 79.3%となり、特に 70 歳以上になると男女とも 95%以上が膝 OA、腰椎 OA、OP のいずれかの所見をもっていることを明らかにしました。これから推定されるロコモの原因疾患の有病者数(40 歳以上)は総数 4700 万人(男性 2100 万人、女性 2600 万人)と莫大な数となります。膝 OA、腰椎 OA、OP のいずれもをもつものの有病者数を推定したところ、これら 3 疾患を合併するものは 540 万人(男性 110 万人、女性 430 万人)と極めて多数であることがわかりました。

プレスリリースでは、有病者数に加えて、ロコモ原因疾患とその他の要介護疾患、特にメタボリックシンドロームや軽度認知障害との関係についてもご報告致します。

なお ROAD プロジェクトの最新解析結果については第 27 回日本骨代謝学会(7 月 23 日～25 日)、第 58 回東日本整形災害学会(9 月 11 日～12 日)にて発表する予定です。

【学会発表予定】

第 27 回日本骨代謝学会学術集会(平成 21 年 7 月 23 日～25 日、於：大阪国際会議場)

- 1) 変形性膝関節症、変形性腰椎症、骨粗鬆症と軽度認知障害との関連: The ROAD (Research on Osteoarthritis/osteoporosis Against Disability) Study
- 2) 腰椎圧迫骨折および変形性関節症の QOL への影響 —the ROAD study—
- 3) 変形性腰椎症と腰痛および運動機能との関連: The ROAD (Research on Osteoarthritis Against Disability) Study
- 4) X 線学的変形性膝関節症の重症度定量化と自動診断に関する検討—ROAD (Research on Osteoarthritis Against Disability) プロジェクト—

第 58 回東日本整形災害学会(平成 21 年 9 月 11 日～12 日、於グランドパーク小樽)

- 1) 片脚立位時間とロコモティブシンドローム

---

＜本件に関するお問合せ先＞

東京大学医学部附属病院

22 世紀医療センター関節疾患総合研究講座

電話:03-5800-9178(直通)

＜取材に関するお問合せ先＞

東京大学医学部附属病院

パブリック・リレーションセンター 担当: 深井、渡部

電話:03-5800-9188(直通)

E-mail : pr@adm.h.u-tokyo.ac.jp

---

【会場案内】地図・交通案内 <http://www.h.u-tokyo.ac.jp/access/index.html>

